

レスリング競技の普及発展および 地域連携による競技力向上に関する考察

レスリング専門部

山形県立米沢工業高等学校

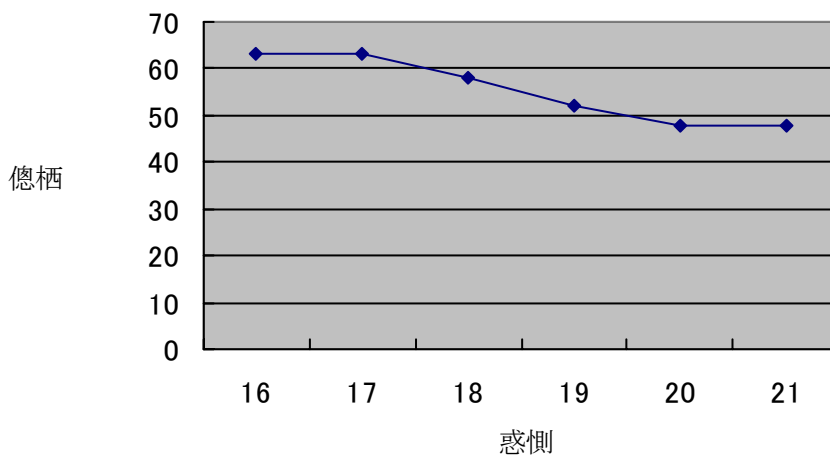
玉橋 貴彦

1 はじめに

昨今のレスリング界では、男・女ともに世界で活躍している。その中でも、北京オリンピックでメダルを獲得した、男子スリースタイル銀メダリスト・松永共広選手(ALSOK)や銅メダリスト・湯元健一選手(ALSOK)、女子フリースタイル・金メダリスト・吉田紗保里選手(ALSOK)・金メダリスト・伊調馨選手(ALSOK)・銀メダリスト・伊調千春選手(ALSOK)・銅メダリスト・浜口京子選手(ジャパンビバレッジ)は幼少期よりレスリングを始め世界で活躍している。このように現在の日本レスリング界は、幼少期からレスリングを始め全国大会などで活躍してきた選手が、全日本のトップチームを支えている現状にある。

幼少期からレスリングに親しんでいるため、バランス感覚、試合の駆け引き、技のタイミングなどで高等学校から始めた選手より数段の差がある。かつては、高等学校から始めた選手も全国大会での上位入賞が可能であったが近年はかなり厳しい状況になってきている。また、全国的な少子化に伴う生徒数の減少により部員確保がかなり厳しい状況であり、部活動離れ特に運動部離れが叫ばれている。本県においても高校の登録選手が減少傾向にあり、選手確保が重要な課題となっている。

○本県レスリング競技の登録人数の推移



そんな中、3年前に米沢市で中学生を対象としたレスリングクラブ「アルカディアJr. WC」が発足した。米沢市には小学生を対象にした「米沢レスリングクラブ」があり、そのクラブの選手が中学進学後も競技を継続できる環境が「アルカディアJr. WC」の設立によって整った。また、本県では高等学校まで継続して競技を続けている生徒は少なく、「アルカディアJr. WC」の選手が中学校卒業後も継続してレスリングを続けてくれることで本県の競技力向上に繋がると考えられる。このようなことから、本県のレスリング競技の技術力向上や各種大会での入賞を収めるためには、幼少期からの選手確保と育成における各年代での指導體制の確立が必要であるとする。そこで、本研究では、他県のスポーツ少年団やクラブの活動状況や指導體制、他の競技機関との連携などを調べ、本県と比較検討して今後の課題や取り組みについて一提案ができればと思う。

2 アルカディアJr. レスリングクラブ概要

本クラブは、レスリング競技人口の底辺拡大を図り、全国で活躍する選手の育成と、地域の中学生から優秀選手の発掘を目指すことを目的に設立した。また、総合型地域スポーツクラブをモデルとし、外部活動として中学校の承諾を得て、部活動には入部せずに授業終了後レスリング活動場所に集合するようにした。活動場所としては置賜地域でレスリング部がある山形県立米沢工業高等学校レスリング場をとさせていただいた。

- ① 対 象: 米沢市内及び置賜地域の中学生
- ② 活動内容: 週6日
- ③ 活動時間: 2時間
- ④ 活動人数: 6名(男子5名、女子1名)

3 研究の方法

- (1) 調査方法 ①アンケートの実施
- (2) 調査対象 ①アルカディアJr. WC
 - ②米沢レスリングクラブ
 - ③他県レスリングクラブ
- (3) 実施時期 平成22年2月上旬
- (4) 調査内容 意識調査

4 結果と考察

- (1) 本県と他県の活動状況調査
本県と任意に選んだ各県のレスリングクラブの活動状況

① 所属年代および人数について

	山形県 (米沢WC・ アルカディア)	京都府 (網野WC)	栃木県 (宇都宮WC)	三重県 (いなべWC)
小学生男子	11	15	12	10
小学生女子	2	6	9	5
中学生男子	6	4	5	6
中学生女子	1	2	2	0
合 計	20	27	28	21

①の表のとおり、各県のクラブの所属年代として差はあるものの20名前後で活動していることが分かった。京都府は、地域一貫教育で地域の方がレスリングを非常に理解してくれているので、毎年所属人数の増減がないことが分かった。また、中学生の人数としては本県は他県と比べても少ない状況にあるのではないことが分かった。

② 活動回数および活動日について

	回数(週)	月	火	水	木	金	土	日
山形県	6	○	※○	○	○	※○	○	
栃木県	2						※○	※○
京都府	2		○			○		
三重県	3			○			○	○

山形県の※は、米沢WCと一緒に活動している。

栃木県の※は、幼年・初心者の部と小学生・中学生の部に分けて活動している。

③ 活動時間と主な活動場所

	活動時間	活動場所
山形県	2時間	高校レスリング場
栃木県	2時間	中学校体育館
京都府	1時間30分	高校小体育館
三重県	2時間	高校レスリング場

ほとんどのクラブが週に2回というスタイルをとっている。しかし、山形県は前途のように中学校の部活動に加入していないため週6日の活動が可能となっている。栃木県は、中学校体育館を活動場所としているのには驚いた。これは、レスリングはレスリングマットがなければ技術練習等ができないため、レスリングマットが常設されている場所が活動場所として最適である。そのため、地域にレスリング部がある高等学校が活動場所となっていると考えていたため、中学校体育館での活動となれば中学校の全面的協力を受けているものと考えられる。また、高等学校で練習することで技術レベルの向上や駆け引きを学べるという点で、非常にいい影響を及ぼすと考えられる。また、高校生と練習することで身近な目標の動機付けや練習した技が高校生に掛ったなど、自信をつける機会としても非常に有効である。本県としても今後より一層連携を深めていく必要がある。活動時間としても本県・他県とも2時間としている。週末であれば若干の超過はあると考えられるが、平日となれば小・中学校が放課したのち活動場所に集合するまでに時間がかかり、保護者の苦労もある。集中した練習ができる練習時間として最適であると考えられる。

④ 指導者(監督・コーチ)の人数について

	山形県	栃木県	京都府	三重県
男性	6	7	7	6
女性	1	3	1	0
合計	7	10	8	6

指導者の人数としては、各クラブとも充実した指導体制である。レスリングは、基本姿勢の指導やフットワーク時の体重移動など今までに経験したことのない動きが多いため、しっかりと指導をしておかなければ後々の指導が困難になってしまう。基本の徹底を図るには指導者が多いほど目が届き指導しやすいと考える。クラブ指導者はレスリング経験者が多い。そんな中で米沢WCの女性指導者は初心者にも関わらず指導者講習会などに参加しレスリング知識を深め、クラブ指導者として立派に子ども達を教えている。このような情熱あるクラブ指導者の育成も併せて今後の大きな課題である。

⑤ 選手確保・勧誘のための取り組み

クラブ名	内 容
米沢WC アルカディアJr. WC	市広報の少年団一覧への掲載。友人・保護者伝いの勧誘
宇都宮WC	クラブ独自のHPの活用。クラブで他競技も運営。
網野WC	クラブ独自のHPの活用。友人・保護者伝いの勧誘
いなべWC	クラブ独自のHPの活用。友人・保護者伝いの勧誘

他県の勧誘方法としては、クラブのHPを作成し大会報告や近況報告など最新情報を掲載するなど時代にあったものであった。HPを活用していないのは本クラブだけであり、開設するかどうか検討が必要である。また、栃木県はレスリング以外の競技(陸上)でも活動しているのには驚いた。クラブで2種目の競技運営は指導者・保護者の方の協力体制がとて強く、何より選手を育てたいという意識の高さの表れだと感じた。

⑥ 「レスリングを始める時に期待したいこと・不安に思ったこと」(アンケートより抜粋)

(期待したいこと)

- ・レスリングを通して肉体的・精神的に成長して欲しい。
- ・各種大会で活躍して欲しい。
- ・自己責任(体調・体重管理)を身につけて欲しい。
- ・物事を途中で投げ出さない子どもになって欲しい。

(不安に思ったこと)

- ・怪我などが心配である。
- ・レスリングだけでなく、他競技も経験させたい。
- ・メディアに取り上げられる機会が少なく、認知度が低い。
- ・大会・遠征での費用が心配である。
- ・広報活動を活発にして欲しい。

以上を踏まえ、各関係組織と連携を図りながらクラブ運営をしていく必要がある。

(2) 本県のクラブ生徒の状況(米沢WC・アルカディアJr. WCアンケート結果より)

① レスリングを始めた年齢、きっかけについて

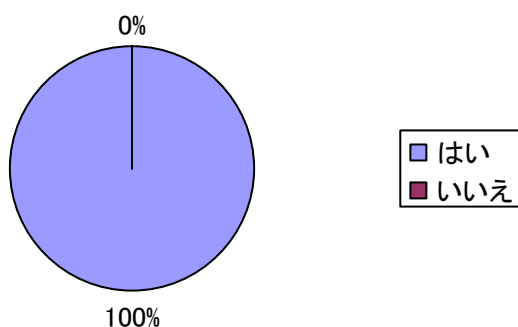


グラフより、低学年から始めている生徒が大半であった。これにより中学年・高学年からでも始められる

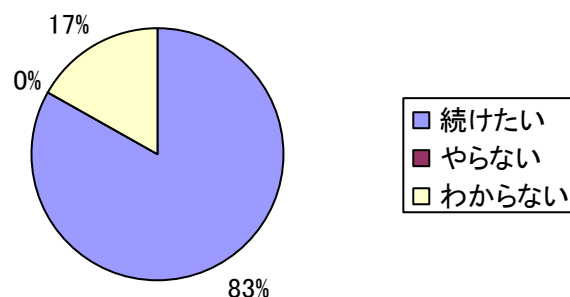
広報活動をもっと充実する必要があると考える。また、「親の勧め」で始めるきっかけが 55%となっている。クラブには兄弟で在籍している生徒が多く保護者がレスリングに触れてレスリングの魅力や安全性を理解してくれたことでこのような結果に反映されていると考える。また、生徒自身のやる気もそうだが保護者の理解を得ることも重要であり、今後は保護者へのアピールも考えていかなければならない。

② 中学生への意識調査について

①レスリングは楽しいか < 全体 >



②高等学校でも競技を継続するか < 中学生全体 >



①の結果より、中学生がレスリングを楽しんでいるのは、クラブの方針が無理強いさせることなくレスリングを楽しみながら継続させることを意識しているからだと考えられる。また、②の結果からも競技継続意識が高いことが分かる。(本クラブ出身者が高等学校に進学するのは平成22年4月からである)これは、今まで競技を継続してきたことで試合に勝つことを覚え、強くなりたいという欲求からだと考えられる。高等学校では試合数は決められてしまうので小・中学生の時により多くの試合に参加させ「勝つ事・勝利の味」を覚えさせることが競技継続意識を高められると考える。どちらのグラフの結果も指導者としては嬉しいばかりであるが、これを継続していくことが本県・日本レスリング界の競技人口を増やし、技術力向上につながると考える。

5 ま と め

今回の研究で、将来本県レスリング界を担うであろう小・中学生のレスリングに対する意識調査を実施できたことはとてもよかった。また、他クラブの活動状況なども調査でき、今後の参考となる事もあり今後の指導に活かしていきたい。本県・他県とも、クラブ人数確保に力を注いでおり、競技継続を考え長期的指導で生徒を育成していることも今回の調査で分かった。小・中学生をしっかりと確保し、高等学校でも競技を継続できる環境と、卒業後もレスリング競技に携われる環境作りが、今後の本県レスリング競技の普及発展に繋がっていくと改めて感じた。今後も、調査・研究を通してレスリング競技の普及発展に努めたい。